

まえがき

フランスの空想科学小説家ジュール・ヴェルヌが「地球から月へ」という作品を発表したのは1863年のことであった。それから1世紀後の1957年、世界最初の人工衛星スプートニクが打ち上げられた。わずか100年たらずで、夢は現実になったのである。そればかりではない。スプートニク以後、衛星技術は驚くべき進歩をとげた。いま地球のまわりには、3000個以上の衛星があり、そのうち200程は静止衛星としてたえず信号の送受信を行っている。地上でも光ファイバーによって代表されるような新しい通信技術が次々に開発され、実用化されるようになった。

このような通信技術は、様々な領域で応用されている。それを大学をはじめとする高等教育にどのように利用することが出来るかは、我々大学人に与えられたこれからの重要課題である。とりわけ、平成3年春の大学審議会の答申が明らかにしているように、日本の高等教育は大きな転換点を迎えることになった。高度の通信技術利用も大学改革にとっての挑戦である。そのような趣旨で今回のシンポジウムは開催された。話題は大学関係者の注目を集め、放送教育開発センターの歴史の中でかつて例のない多くの参加者においでいただくことが出来た。ここにその記録をとどめ、放送教育開発センターの次の発展のための足がかりにしたい。シンポジウムの企画と実行にあたられ、或いは参加された多数の同僚に心からの感謝をささげつつ。

放送教育開発センター所長 加藤 秀俊